


<h1>有限会社いけがわ</h1>		業種	卸売・小売業		
		事業所所在地	兵庫県朝来市		
被承継者		承継者			
	株式会社糸縁 美濃 秀俊		有限会社いけがわ 片山 剛伸		
	事業承継時年齢		44歳	事業承継時年齢	38歳
	業種		宿泊・飲食サービス業	業種	卸売・小売業
	事業所所在地		兵庫県朝来市	事業所所在地	兵庫県朝来市 他
	資本金			資本金	3,000千円
従業員数	3名	従業員数	19名		
事業承継前の主たる事業内容		事業承継前の主たる事業内容			
飲食業（居酒屋 みんなの味 七笑） 葬祭業（Next Ceremony 糸縁）		小売業（サラダ館 和田山店・山東店） 葬祭業（Ceremony Produce かなで） 旅行業（縁結びトラベル）			
被承継者と承継者の関係		事業での取引があった			
事業承継の経緯					
事業承継の検討を開始した時期：2017年3月頃					
被承継者		承継者			
事業全体の売上減、人材育成	承継前の事業課題	小売業・葬祭業の販売エリア拡大、人材確保			
①飲食店舗数拡大、人材育成 ②飲食業での売上増及び拡大を目的とした	事業課題解決のために、 ①他に検討した手法は？ ②なぜ事業承継を選択したか？	①小売業店舗買収、他の葬祭場との連携 ②地域で協力関係にあり、以前から相談を受けていた			
社員との確執	相手先との交渉開始のきっかけ	株式会社糸縁写真全員からの相談があった			
課題：店舗数増のための資金調達 克服：営業権譲渡による資金源確保	課題と克服 ①財務	課題：人件費創出と人材教育 克服：承継による売上増・エリア拡大、慣習的教育の見直し			
課題：承継先への引き継ぎ 克服：両社による一括交渉	課題と克服 ②取引先との調整	課題：仕入れ価格の見直し 克服：取引先との交渉による利益率の改善			
課題：社員意識改革・人件費減 克服：店舗増による業務変更、承継先への転勤	課題と克服 ③社内調整	課題：拡大エリアへの営業力強化 克服：販売ツールの見直し、社員増			
なし	課題と克服 ④諸手続き	なし			
事業承継を行った時期：2018年5月					
事業承継の形態	事業承継 成立の決め手になったのは？				
■ 事業譲渡	被承継者	承継者			
	有限会社いけがわを存続会社として、株式会社糸縁の葬祭事業を譲渡。	承継者の人柄と戦略的計画に関する信頼	適正な譲渡金額と承継後の協力体制が明確		

新たな取組の目標			
葬祭部門における「フルオーダーメイドのお葬式」の提案			
新たな取組の内容		新役務の開発又は提供	
●現在のインターネット社会では、葬儀施工価格を施主が知る事が一般化しているが、いまだに業界独特の費用の不透明さがある一方で、小規模葬や低価格で簡素な葬儀のニーズが高まってきている。 ●そのため、施主の立場に立ってリーズナブルで明瞭な葬儀のスタイルをデザインし、且つ故人の遺志を尊重した葬儀を実現するためには、生前の段階でいち早く情報をキャッチして生前予約（契約）するかが鍵になると考えた。 ●そこで、生前からのお付き合いを増やすことで高齢者やご家族がどのような規模・価格で葬儀を執り行いたいのかを的確に聞き取り、親身のアドバイスや提案する機会を作るために「エンディングノート」と呼ばれる生前のメッセージ・ツールを用いたセミナーを開催した。 ●セミナーで得られた情報は、終の日に備えてデータベース化して保存するシステムも構築した。また、葬儀施行に際し、宗教宗派によって不必要な物品等はセット売りをせず、必要な事柄に応じて必要なものを情報提供できるよう、ウェブサイトのリニューアルを実施した。			
			
地域経済やバリューチェーンへの貢献		補助対象経費の内訳	
地元の兵庫県朝来市では、大手互助会でしか葬儀を依頼できる環境が無かったため他地域に比べて比較的高額な葬儀請求額を強いられていた現状を把握していた。当社は互助会制度を設けておらず、積立金や会費も一切徴収せず、明瞭安価で葬儀後の手続きや進物の調達・回忌法要や寺院との接続までの一切を徹底してサービスに盛り込んで提供したところ、地域の支持を得ることができユーザーの生活改善や案件後のサポートに貢献できていると自負している。また、市内に本社を置き葬祭業を営む事業所は当社以外に、売上増による税収増にも貢献していけると考察する。		経費の主な使い道 人件費 店舗等借入費 設備費（新会館内装工事費、看板設置費） 広報費（チラシ作成費） 外注費（ウェブサイト制作費）	
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
補助事業申請のための計画書内体裁に関する部分では、制度の目的を親身に教えていただきながら整え方の指導をしていただいた。また、報告書に関する体裁においても長年の経験や知識をもとに親身のアドバイスを繰り返していただいた。			
今後に向けて～次の目標			
2018年から2021年に向けて		会員獲得のための営業活動や地域諸団体・有志団体での活動を続け、一人ひとりが当社全体のファン創りを心がけて継続していくことは必須。 当社の事業目的は「地域で一番愛される会社になる」こと。これこそが次の目標を設定し、目標クリアしていくための指針であり判断基準である。このことを社員全員に簡単に明確に伝播させることに重きを置き、「次の目標」そのものを社員で設定できる環境づくりに取り組みたい。	
売上高	50%UP		
これから事業承継に取り組む事業者の方へ			
被承継者からの一言コメント		承継者からの一言コメント	
助け合う・協力し合うという意味での事業間承継方法もこれからの時代には必要だと感じました。		ローカルエリアにおいて、同業他社の競争・競争もある程度は必要だが不毛な争いは不要だと思います。今回は、正に同業間での戦略的目的の一致と未来における協力体制の再構築を実施したと言えます。私たちは、より良いサービスを未来において提供し続けなければならないという使命があります。「当事者間においてお互い何が利益なのか」「お客様は地域の事業者は何を求めているのか」にお応えできたと思います。	